

開催概要

日時： 2017年9月16日(土)～18日(月)

場所： 国立オリンピック記念青少年総合センター
柏木教会

主題： 「あなたの立ち帰る場所はどこですか
～あした
明日の教会を考える～」

主題聖句

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」
(マタイによる福音書 28章 20節)

主なプログラム(案)

1日目 (午後2時00分 開会)

開会礼拝、アイスブレイク、グリーンアドベンチャー、
「オール青年の集い杯争奪」大運動会

2日目 (午前) 各教会の礼拝に出席

(午後) 「東京地区」「横浜地区」「鎌倉地区」に分かれて
教会を巡る歴史フィールドワーク
テーマ別グループトーク

3日目 各グループによる発表。合同礼拝(柏木教会)

(午後3時30分 終了)

☆東京中会の青年と共に、魅力あるプログラムを組み立てています。5月中旬には申込書を発送いたします(8月中旬締切)。青年のみなさん、ぜひ予定に入れておいてください。また、青年たちに参加のよびかけをお願いします!!

発行日：2017年4月20日

発行者：「全国青年の集い」委員会

編集：秋本英彦(全国青年の集い委員会書記)

全国青年の集い



(2015年9月 信徒大会前日プレ青年集会にて)

全国青年の集いの第2報をお届けします。共に集い、出会い、語り合うことを通して、青年たち一人一人が主につながる喜びを見だし、それぞれの場所で喜んで教会につながり、主と共に生きることへと送り出されていくことを願って準備しています。

青年のみなさん、ぜひ参加してください。いっしょに充実した3日間を作りましょう。そして、主にあって結び合わされている仲間たちがいることの喜びや大切さを分かち合いましょう。

全国青年の集い委員会 委員長 藤田英夫(大阪姫松教会牧師)

これまでの委員会の準備報告

これまで委員会を大阪と東京で5回行ってきました。円滑な準備を進めるために、委員4名の他に、東京中会の青年たちの中から4名を互選し、8名の準備委員会として進めております。また、近畿中会の2数名の青年たちに協力委員として動画作成のお手伝いを引き受けて頂きました。これから開催に向けての数ヶ月間、良い準備ができるようお祈りください。



「全国青年の集い」への招き

「クリスチャンらしくないクリスチャン」

中川健人（柏木教会青年・準備委員）

今まで、他教会での青年の集いや全国信徒大会に参加するまでは、周囲(所属している教会の教会員)が優秀過ぎているのではと感じ、劣等感を覚えていました。私が所属する教会では、青年でも壮年でも有名大学を出て企業に勤めていながら執事や委員などの活動で教会に奉仕をしていたり、キリスト教主義学校に在学していたり、毎週主日礼拝に出席して聖書を熱心に勉強していたりする会員が見受けられました。正直、教会に属しているながら教会の雰囲気自体が私にとってハードルが高いと思っていました。そのような環境で長年教会生活を送ってきたため、勉強ができて優秀な人がクリスチャンに相応しいのではないかと思い込んでいました。

ところが、「青年の集い」が契機となって知り合った多くの青年の中には、かつては素行不良だった方がいたり、派遣で会社に勤務していると話した青年がいたりといった出会いを重ねて、思い込みが少し和らいだと同時に、教会の外に出て殻を破ることも大切だと実感しました。

現に私の趣味はオタク寄りであり、卒業したのは有名大学ではなく、なかなか正規の仕事に就くことができない、聖書の通読や読破及び熱心な勉強はしていない、勉強よりも修養会や「青年の集い」といった教会行事の方が好きで...趣味は充実している反面、日常では苦労や挫折などで思い悩むことが多いです。

そのような日常と趣味を両立させながらも、教会に於ける礼拝当番・青年会・実行委員会では務めを果たし、教会内外の行事には可能な限り参加して奉仕していると思っています。私は「クリスチャンらしくないクリスチャン」なのかもしれませんが、それでも教会生活を守っています。それもひとえに、幼少の頃から変わらず教会へと導いてくれた母親や神様の賜物ではないかと思っています。

このような私を受け容れて下さっている教会員の皆様、修養会や「青年の集い」でお世話になっている他教会の先生や青年の皆様方に感謝しつつ、これからは青年会の会長（柏木教会）として、また現在は「全国青年の集い」実行委員の青年の一員としても、信仰生活や集いに向けた準備に邁進していきたいと思えます。

(FACEBOOK 投稿文より)



「私にとっての立ち帰り場所」

宮田彩夏（世田谷千歳教会青年・準備委員）

恵泉女学園を卒業して10年。昨日たまたま卒業アルバムを手に取り、卒業式のDVDを見ていました。そしたらちょうど今日、卒業式だったんですね(^^) 改めて、恵泉の6年のおかげで今のわたしがあるなと思いました。神様に守られてる。当たり前にあったものが、いかに恵まれてた環境だったのか、後から気づくことってありますよね。

高校3年生の1年間ずっと問われていた「あなたの立ち帰り場所はどこですか？」という命題。私にとっては6年間の毎朝の礼拝がそうでした。これは私が大学受験の前に当時の校長先生との個人面談をした時に、自分という人間を嫌という程突き詰めて泣きながら感じたものでした。多感な時期、いろいろあるけど毎朝の礼拝はいつも一緒。自分が戻れる場所。まだクリスチャンではなかったけれど、なぜかこう、自分の中で答えを出していたのは不思議。

昨日は卒業礼拝のDVDを通して校長先生のお話をまた新たな気持ちで聞きました。「出発の時。誰にでも人生のうち何回か訪れる『時』。その『時』に気づかないふりをして墓場まで行く人と、その『時』を受け止めて前に進む人。」2種類の人がいるそうです。今の私は不思議と必要な『時』にいろいろな方から言葉を与えられています。昨日たまたま手に取った、10年前の校長先生の言葉もその1つかなと思います。

高校卒業式の暗唱聖句をふとした時に思い出します。苦難には絶対に終わりが来る。四方が塞がっていても上を見上げたら窓は開いている。とても強められるし、安心して歩めます！

“だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。”

コリントの信徒への手紙二 4章16節～18節(卒業式の暗唱聖句)

(FACEBOOK 投稿文より)

